



感染症週報



小笠原での流行状況

第15週（4月7日から4月13日まで）

父島 特別な感染症の報告はありませんでした。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

第14週（3月31日～4月6日）

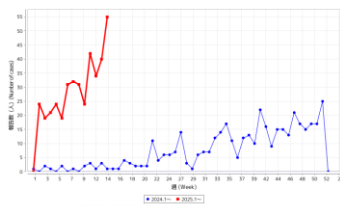
【警報・注意報】

なし

【ピックアップ】

増加しています

・百日咳



高い水準を維持

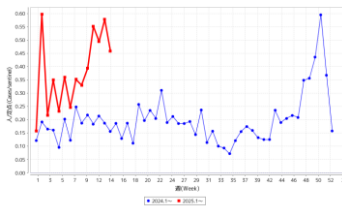
・感染性胃腸炎

（定点患者報告数 6.28

若干高めです

・水痘

（定点患者報告数 0.46）



感染症メモ

参考、出典：厚生労働省HP、国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所HP、東京都感染症情報センター

乳幼児が百日咳に罹患した場合、重症化を防ぐために、早期診断と適切な抗菌薬投与が重要とされています。しかし、近年抗菌薬に耐性をもつ百日咳菌が増えてきており、従来使用されている抗菌薬が効かず、治療が長引いてしまうことがあります。百日咳菌に抗菌薬への耐性があるかどうかを調べるには、まず百日咳菌を培養する必要があります。百日咳菌は一般的な病原菌を育てる培地には発育できず、特殊な培地を必要とします。しかも、とても発育が遅く、耐性があるか調べるために1週間以上かかってしまいます。薬剤に耐性をもつ菌を流行させないためにも、まずは自分がかからないようにしっかりと感染予防をしましょう。処方された抗菌薬は必ず飲み切ることも大切です。

百日咳が増えています

百日咳は百日咳菌によって起こる呼吸器感染症で、名前のとおり激しい咳をとまなう病気です。1歳以下の乳児、とくに生後6カ月以下の子どもでは、咳により呼吸困難となったり、けいれんを起こして、窒息や合併症で亡くなってしまうこともある怖い病気です。



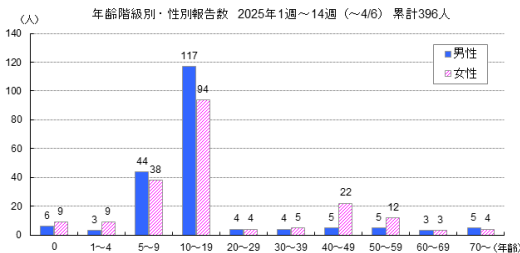
咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します（飛沫感染）

感染力は強力です！

ワクチンを接種することで、百日咳の罹患リスクを80～85％程度減らすことが出来ます（4種混合ワクチン、5種混合ワクチンに

含まれています）。**生後2か月に達したら早めにワクチンを接種しましょう。**また、日本小児科学会では、ワクチン効果の薄まる小学校就学前の1年間と11～12歳（任意）での3種混合ワクチンの2回追加接種を推奨しています。

小児を中心とした感染症ですが、**近年は大人の感染例も増えています。**大人は子供に比べると比較的症状が軽いですが、咳が長く続くため、咳エチケットを守って子供への感染を防ぐことが重要です。



習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所

